



## 森林を守り、育て、活かし、豊かな森を未来に引き継ごう



■表紙写真 題名：「森の雲海」 撮影地：静岡市清水区布沢 撮影者：鈴木 悦夫（富士市）

本誌のバックナンバーは、静岡県山林協会ホームページでご覧いただけます。  
ホームページには、林業への就業を考えている方の参考になる記事も掲載しています。

URL : <https://www.moritohito.jp>



## INDEX

**23** 事業体等紹介 No.23 (スルガフォレスト株式会社)  
風通しが良い組織づくりと自主性を伸ばす人材育成を展開

**4** 支部だより① (裾野市 農林振興課)  
裾野市の林業施策と県施工による森林基幹道「裾野愛鷹線」の開設について

**5** 支部だより② (浜松市 林業振興課)  
浜松市の森林環境教育について

**6** 森林・林業研究センターだより No.96  
夜間のLED照明で原木生シイタケのキノコバエ被害を防ぐ

**7** 令和8年度  
県森林・林業関係主要予算の概要

**8** 本部情報  
林業イノベーションの推進  
林業への就業支援(令和8年度予定)  
第43回しずおか森林写真コンクール作品募集

# 事業取材

● No.23

## 風通しが良い組織づくりと 自主性を伸ばす人材育成を展開

スルガフォレスト株式会社

林業における人材の確保・定着が課題とされる中、林業経営体の待遇、職場環境の改善が求められており、各経営体における模索が続いています。そうした中、起業から16年と、まさに成長期のスルガフォレスト株式会社が行っている、特徴的な現場の運営や組織づくりの取組を取材しましたので、ご紹介します。

### 設立から続く想い

スルガフォレスト株式会社は、平成22年（2010年）に設立、現在16年目を迎えます。代表の音無務氏は森林組合に15年間勤務した後に独立。「より山主に貢献できる森林づくりをしたい」という想いで起業されました。当時の東部地域では木材の搬出利用は一般的ではなく、保育間伐が主に行われていました。平成18年度から森の力再生事業が始まっていたこともあり、1人での独立でも参入しやすいタイミングであったと言います。さらに「組織の中では実現が難しいことも、自らの経営体であれば挑戦できる」その考えが独立を後押ししました。森林整備を通じて地域に貢献したいという想いは現在も変わらず、企業理念に掲げられています。



▲音無氏（左）、石渡氏

### 経営体経営と森林経営計画策定

現在、木材生産が事業の約9割を占め、利用間伐で年間6,000~7,000m<sup>3</sup>を出材。三島市、函南町内で約700haの森林経営計画を策定。集約化は、

区有林など大規模所有の森林を中心に営業をかけています。まずは団体の責任者等にアプローチ。何の繋がりもない団体へ営業をかけるため大変ではありますが、『間伐費用がかからない、現場によって収入も見込める』といったメリットを含めて丁寧にご提案することで、門前払いは無く、役員会や総会で説明の機会を設けていただけるとのこと。とはいえ、総会等にご説明に上がると、「作業道を入れたら山が崩れてしまうのではないかなど」と心配される方が出てくることも。しかし、丁寧な説明や実績をご紹介することで納得いただける場合が多く、地域との信頼関係は確実に広がっています。

### 路網整備と林業用機械による高い生産性の確保

現場の森林技術者は7名で、20代2名、40代4名、50代1名と比較的若い年齢層で構成、その内、石渡輔氏は書類作成等プランナー業務を兼務されています。おおよそ1人あたり年間1,000m<sup>3</sup>の出材量は、他と比較しても高い生産量であると思います。会社の特徴としては保有する林業用機械の充実度です。ハーベスタ2台、フォワーダ2台、グラブ7台、その他ザウルスなどを所有しており、ほぼフル稼働していると言います。機械は初期に導入した3台を除き、補助金は使用せず自己資金で順次購入



▲スルガフォレストの皆さん

されています。

函南町のフィールドは500haがほぼ1団地に集約化できており、県単助成を活用し、最初に10tトラックが入れる林道を自社で開設。そこから枝分かれして森林作業道を配置して生産基盤を整え、林業用機械による施業を行うことで出材効率を上げています。



▲現場 施工状況

### 風通しのよい環境づくり

社員は全員が異業種からの転職者です。前職は自衛官や飼育員、営業、造園業など実に多様です。採用は主にハローワークやガイダンスで募集。会社の働きやすさを特徴づけているのが、社員からの提案を積極的に取り入れ、色々と試している点です。毎週のミーティングでは、音無氏自らが社員全員に対して意見がないかを尋ねます。提案にはポケットマネーで金一封が出ることもあります。また、年に2回は音無氏との個人面談“1on1ミーティング”を実施し、皆が居る場では言いにくいことも共有できるようにしています。

「上手くいくことばかりではないです

が、色々な取組を採用するようにしています。」と音無氏は言います。例えば、社員から現場技術者も名刺を持った方が良いのではないか?という提案があり、その1週間後には全員に名刺を配布。これは、会社の現場作業を見た隣接の方から、ついでに庭木処理を頼まれることなどがあるため、全員が営業マンでもあるべきと考えた発案です。また、休暇取得をしやすくする改善案も採用。さらに前職で公共施設の管理業務を担っていた社員には、前職の知識を活かした安全訓練の行動指針を作ってもらいました。前職の知識等を活用した提案をどんどん取り込もうという姿勢で運営しているとのこと。会社ではこの5、6年間は離職者がいないと言います。この理由は、会社の雰囲気がよく働きやすく、コミュニケーションも図られているからではないでしょうか。



▲現場 施工状況

## フラットな組織運営と個々の自主性を高め、成長を促す仕組み

全員が転職組で、『親方と見習い』といった従来型の上下関係はなく、フラットな組織運営が行われています。このため、誰かを見習うのではなく、お互いを尊重し皆で教え合う姿勢が芽生えています。加えて特徴的な点が、現場責任者(班長)は、若手も含め全社員が順次担うことです。統括する音無氏は各現場責任者の指名までを行います。指名された責任者が、現場に係る予算の把握や、班構成のメンバー選択、工程管理等を任されるので、コスト意識やマネジメント

力が養われます。また、年度途中で各現場の進捗状況や優先度に応じて、責任者同士でメンバーを融通し合うこともあります。全員が責任者を経験することで責任者の苦労を理解し、自分が各現場に入った時も工程を守ろうとする協力意識が芽生えるなど、自主性を伸ばすことにつながると言います。

「若手社員から、止まっていた2台の社用車を比較し、二人で出かけるなら経費の安い軽自動車の方で行こうと言われました。コスト意識が育まれたことを実感しましたね。」と石渡氏。さらに、色々な業務経験をすることで、音無氏も社員の得意なことが把握でき、それを踏まえた適切な分担を行なえるなど、良い形で全員が成長していきます。

また、年初には各自に目標を設定してもらい、ミーティング等で進捗を確認していくようにしています。会社としては木材生産量等の中長期的な数字目標を示し、例えば『安全な作業を行う』、『この資格を取りたい』、『この重機を扱えるようになりたい』など、会社の目標は踏まえつつ今年やりたいことを各自が考えます。設定した目標は決意表明として目標シートに書き、会社の事務所に掲示しています。これは経営方針等について音無氏と社員の相互理解にもつながるツールだと思います。さらに、掲げられた資格取得については取得後の手当支給や取得費用補助もあり、スキル向上を後押ししています。



▲現場 施工状況

## 現場で感じた「働きやすさ」

音無氏と石渡氏への取材後、国有林内の地拵えの現場にお邪魔しました。現場は急斜面で皆伐後の残材も多く、全員が集結して人海戦術での作業を行っていました。林業のやりがい等について何うと「山がきれいになり、成果が目に見えることに達成感を感じる」、「月給制で生活が安定した」、「次世代に森林を残す仕事に魅力を感じる」などと林業に対して前向きに捉えている声が聞かれました。また、同社設立初期に入社したベテラン社員からは「人も機械も揃ってきた。できる仕事が増えてきて、今一番良い会社になっていると感じています」との話があり、会社の雰囲気の良さを実感しました。

## 終わりに

山林協会で行った雇用関係調査(森と人 2026.3.15号参照)によると、従業員が考える離職理由には、給与面だけでなく、「会社の将来性に不安を感じる」、「評価・人事制度に不満がある」、「キャリアアップが見込めない」等が上位に挙げられました。スルガフォレストにおける組織の在り方や従業員の視点に立った魅力ある仕組みづくりは、経営や人材育成のあり方を考える上で重要な示唆を与えるものではないでしょうか。加えて、こうしたことを運営する経営者のマネジメント力が不可欠であることも感じました。

「山の購入も始めているので、今後は自社所有林で主伐・再造林にも取り組めるよう、造林事業について勉強中」、「社員がFW研修を修了したので、今後社員全体のレベルアップによって生産性が高まれば、さらに給与額を上げることができる」と音無氏。スルガフォレストの企業理念である「人・地域・社会への貢献」が一層展開されるとともに、「企業価値」がさらに高まることが期待されます。

# 支部 だより①

## 裾野市の林業施策と県施工による 森林基幹道「裾野愛鷹線」開設について

裾野市 農林振興課

市が進めている林業関係施策や県が施工している裾野愛鷹線の整備状況について紹介いただきました。

### 裾野市の森林の概況

本市は静岡県の東部に位置し、沼津市と御殿場市のほぼ中央に位置しています。市の面積は138.12haで、東西23.5km、南北23kmに及び、市域は東が箱根山外輪山の分水嶺で神奈川県箱根町と接し、西は愛鷹山の越前岳、呼子岳、位牌岳で富士市と、大野原で御殿場市と、南は愛鷹山及び箱根山のすそので三島市、長泉町と接しており、豊かな自然に囲まれています。昭和27年に実施された全国植樹祭を契機に造林事業が行われ、箱根外輪山はヒノキ、愛鷹山系はスギの産地として、全国でも有数の森林地帯を形成しています。裾野市の森林面積は8,613haで市域の約62%を占めています。



▲裾野市全域

### 裾野市の主な林業関係施策

#### 1. 間伐事業

##### ① 市単間伐事業

裾野市域の森林面積の内約69%は手入れの必要なスギやヒノキの人工林で占められています。そのため、林業経営体の育成と、貴重な財産を守りより価値のあるものにすること、災害に強く地下水を涵養する森林を育てることを目的として、間伐事業を推進しています。県による補助事業の活用はもちろん、市単独事業として市民所有の山林は負担金なしでの間伐を、林業経営体への補助事業により実施しています。



##### ② 富士山遊歩道ナラ枯れ伐採事業

裾野市須山地域に属する富士山遊歩道は、市内の森林レクリエーションの場として、市内外から大勢の来訪者が訪れる。しかし、敷地内の広葉樹にナラ枯れが発生し、倒木の危険性が高まったことから、裾野市森林組合は、令和4年度から令和5年度にかけて、敷地内のナラ枯れ被害木の伐採作業を行いました。

当該伐採事業は、市の森林環境譲与税事業として、裾野市森林組合へ補助金を交付し、事業が実施されました。



実施前



実施後

#### 2. 木材の有効利用

##### ① 土砂流出防止柵の設置

治山対策として、間伐材の活用による長さ4m×高さ0.5mの土砂流出防止柵を毎年設置しています。令和7年度は243基を設置し、林地保全と木材の

有効利用を促進しました。



##### ② 方針の策定

平成25年度より「裾野市公共建築物等の木材の利用の促進に関する方針」を定め、有効利用を促進しています。

#### 3. 林道の整備

##### ・森林基幹道「裾野愛鷹線」

裾野市北部～西部に広がる愛鷹山麓には、50年生を超えたスギ・ヒノキの人工林が多くあり、伐採適齢期を迎えています。木材価格が低迷し林業経営が困難な状況の中、山林の維持管理が滞り、土砂災害防止、水源涵養等の機能が失われつつあり、近年頻繁に発生している大雨による災害も懸念されています。

このことから、連携のない既設林道5路線を繋ぎ幹線となる森林基幹道「裾野愛鷹線」を整備する事業が、静岡県により平成26年度から始まり、令和7年度までに延長3,293mが開設されています。

この森林基幹道の整備により、愛鷹山麓の人工林のほとんどが整備可能となり、効率的な森林整備計画を立てることが可能になります。

また、富士木材センターに通じている国道469号線と直接アクセスできることで、木材運搬が容易になり、地域林業の活性化にも寄与することが期待されています。

併せて、受益面積は約1,900haとなるため、190haの森林整備を目標に森林所有者への働きかけを行っています。



※あくまでイメージであり、実際の林道の線形とは異なります。

#### 4. 最後に

富士山の世界文化遺産登録を機に、富士山周辺の景観及び環境の保全・美化の必要性が一層高まっています。文字通り富士山の裾野に広がるのが裾野市は、「森林も富士山の景観を形成する重要な要素のひとつである」との認識のもと、今後とも森林開発と森林景観及び環境保全・美化の適正なバランスに配慮した施策を展開してまいります。

# 支部 だより ②

## 浜松市の森林環境教育について

浜松市 林業振興課 白柳雄偉

市が進めている体験型の森林環境教育の取組などについて紹介いただきました。

### はじめに

浜松市では、豊かな森林資源を将来へと引き継いでいくため、林業振興課を中心に、森林環境教育に関する様々なイベントや体験型事業を実施しています。市域の約7割を森林が占める本市において、森林は水源の涵養や災害防止、地球温暖化の緩和など、私たちの暮らしを支える重要な役割を果たしており、多面的機能に対する市民理解の醸成は極めて重要です。

こうした背景を踏まえ、本市では市民を対象とした体験型の教育機会の充実を図るとともに、森林資源の適切な保全と活用に対する意識の向上に努めています。

### 市内での事業内容について

代表的な取組の一つである出前講座「森はみんなの宝物」は、市内の小・中学校等を対象に実施しており、森林や林業に関する基礎知識の習得に加え、林業の現場を身近に感じられる実演・体験を組み合わせる内容としています。講座では、市職員及び林業関係者が講師となり、森林の有する多面的機能、森林認証制度の意義、適切な森林整備の必要性等についてクイズ形式で体系的に解説するとともに、林業用機械器具の紹介やチェーンソーによる作業実演等を通じて、児童が森林と生活との関わりを実感的に理解できるよう工夫しています。



▲市職員による講座



▲児童による丸太切り体験

また、民間事業者や地域団体と連携した体験型イベントにおいては、親子を対象とした森林環境学習を実施しており、森林の役割や木材利用に関する講話に加え、天竜地域で生産される良質な木材「天竜材」を活用した木工体験(天竜ヒノキマイ箸づくり等)を行っています。天竜材は、木目の美しさや強度、加工のしやすさに優れた地域を代表する木材であり、その温もりや香りといった魅力を実際に体感していただくことで、木材利用の意義や森林資源を循環的に活用することの重要性について理解の促進を図っています。

### 市外での事業内容について

さらに、本市では市外における普及啓発活動にも積極的に取り組んでいます。

す。都市部で開催される環境関連イベントや展示会等へ出展し、天竜材の特性や魅力について広く情報発信を行うとともに、木製品の展示や木工体験の実施を通じて、来場者が実際に木に触れ、その質感や香り、品質の高さを体感できる機会を提供しています。これらの取組により、天竜材の認知度向上及び利用促進を図るとともに、本市の森林整備の取組や持続可能な資源循環の重要性について理解を深めていただくことを目指しています。



▲東京ビッグサイトで開催されたジャパンホームショー&ビルディングショー2025に出展した浜松市ブースの様子

### おわりに

これら林業振興課による一連の取組は、単なる知識の習得にとどまらず、実体験を通じて森林の多面的価値を総合的に理解していただくことを重視するものです。森林と人々の暮らしとの密接な関係を実感し、その保全と適切な活用に関与する意識の醸成を図っています。

浜松市では、今後もこうした体験型の森林環境教育及び普及啓発活動を継続的に推進し、次世代を担う人材の育成と持続可能な森林づくりの実現に努めてまいります。

## 夜間のLED照明で 原木生シタケのキノコバエ被害を防ぐ

静岡県森林・林業研究センター 内山義政

県森林・林業研究センターからは、キノコバエによるシタケの食害被害を防ぐための実証試験の内容や成果などについて紹介いただきました。

### 原木生シタケ栽培とキノコバエ被害の現状

静岡県の伊豆地域は、原木シタケ栽培発祥の地であり、特に原木生シタケは生産量が全国1位と多く、また、毎年全国の品評会で高成績を収めるなど、品質面においても高い評価を受けています。しかし、生産現場では、キノコバエによるシタケの食害被害がたびたび発生し、生産者を悩ませる深刻な問題となっています。キノコバエは夜間にシタケへ卵を産むために飛来します。孵化した幼虫は内部に侵入して、シタケを食べながら成長するので、外観からは被害に気づくことが難しいです。また、シタケは無農薬な食品として知られていることや、化学物質を吸収しやすいことから、農薬による防除ができません。そこで防除方法の検討にあたり、夜間に飛来するキノコバエは、光の照射によって産卵行動が抑制されることに着目しました。当センターでは、シタケのホダ場にLEDライトを設置して夜間に点灯することで、キノコバエからシタケを守る農薬を使用しない予防法を考案していました。

### クラウドファンディングを活用した実証研究

令和6年度は、伊豆地域にキノコバエが大発生し、生シタケの出荷を取り



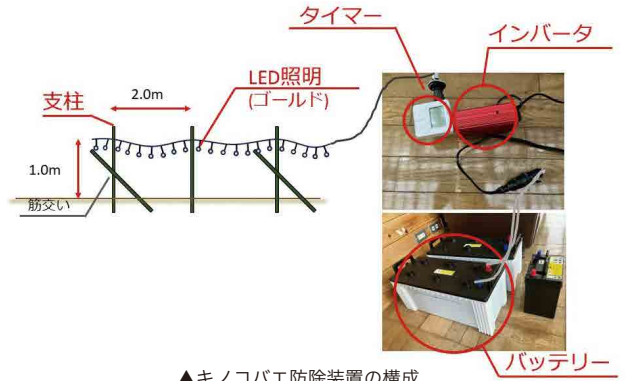
▲原木生シタケを加害するキノコバエ2種の成虫

やめる事態となるなど、生産者には大きな損失が生じました。これまで明らかにしてきたLED照明による予防法は、小規模な試験ホダ場で確認されたものであったため、実際の生産現場でも同様の効果が得られるかを実証する必要がありました。そこで、被害発生直後の令和7年度に試験を実施するために、クラウドファンディングを活用して研究資金を募ることとしました。結果、多くの皆様からご支援をいただき、37万6千円のご寄附を受けて試験を実施することができました。

### 予防装置の技術仕様

装置の開発に先立ち、LEDライトの仕様と点灯高さについて検討を行いました。LED照明には工事現場などで使用される強い光のものと、イルミネーションなどに使用される弱い光のものがありますが、比較した試験の結果、後者の照明が防除に有効であることが分かりました。また、LED照明の色は、ゴールド色(中間波長)が最もキノコバエの飛来を抑える効果を示しました。

次に、飛来するキノコバエを捕らえるトラップを、地面から高さ2mまで垂らして設定したところ、高さ1m以内に捕獲が集中していました。照明は、地上から約1mの高さに下向きに照らすことで効果が高まると考えられました。これらの成果を基に防除装置を組み立て、ホダ場に設置しました。



▲キノコバエ防除装置の構成

### 実証試験の概要と成果

実証試験は、伊豆市内で、生産者のホダ場をお借りして、令和7年10月から令和8年1月にかけて実施しました。ホダ場の一部を延長60mのLED照明で囲んだ試験区と、照明をしない区画を対照に、キノコバエ被害の発生状況を比較しました。その結果、LED照明を設置した区画では被害が確認されなかった一方、照明を設置しない区画ではキノコバエによる被害が認められました。このことから、LED照明による防除は、実際の生産現場でも有効であることが確認できました。



▲実証試験で設置したLED照明装置

### 生産現場への導入に向けて

今回開発した防除装置は、市販のLED照明やバッテリーなどを組み合わせることで製作が可能です。設置は、2人で1.5時間程度あれば設置でき、運用時のメンテナンスは概ね5日ごとにバッテリーを交換するだけでした。ホダ場では原木の運搬などのために作業道が整備されていることが多く、収穫期はほぼ毎日現場で作業を行うため、収穫作業と合わせて装置の管理を行うことが可能です。

今後は装置の製作マニュアルを作成し、生産者等に情報提供していきます。また、生産者団体やJAなどと連携して技術普及を進めて参ります。さらにLED照明の省電力化を進め、バッテリー交換の手間を軽減することで、より実用性の高い技術へと改良していく予定です。

# 令和8年度 県森林・林業関係主要予算の概要(静岡県)

令和8年度の森林・林業関係予算は、一般会計で総額約118億円(対前年比101%)と決定されました。

新たな森林共生基本計画に基づき、森林資源の循環利用による持続可能な林業・木材産業の推進に向けて、林業の生産性向上や人材の育成など次の事業を実施します。

- ・早生樹活用による次世代林業モデル創出支援事業：早生樹の導入やデジタル技術の実装による新たなビジネスモデルの構築
- ・FAOIプロジェクト推進事業：デジタル技術の現場実装や先端技術を活用した造林・育林
- ・住んでよし しずおか木の家推進事業：しずおか優良木材等の品質確かな県産材製品や森林認証材製品を利用する住宅や非住宅建築物の木造・木質化等に助成
- ・ビジネス林業担い手確保育成事業：森林技術者のスキルアップや林業経営体の安全管理体制の構築

また、森林の公益的な機能を維持・増進するため、次の事業を進めます。

- ・森の力再生事業：森林づくり県民税を活用し、新たに確認された荒廃森林を再生
- ・多様性のある森林づくり推進事業：マツ枯れ被害を受けた県有防災林の多様性のある森林づくり
- ・ツキノワグマ対策事業：ツキノワグマによる人身被害の未然防止や人とクマとの共存に向けた対策

さらに、社会全体で取り組む魅力ある森づくりに向け、次の事業を実施します。

- ・県民参加の森づくり・緑化推進事業：県、県民、森づくり団体等が協働で進める森づくり活動

(単位:千円)

部局名	担当課	事業名	R8当初予算	
経済産業部 森林・林業局	森林計画課	FAOIプロジェクト推進事業費	24,000	
		森林整備事務費	27,700	
		森林・林業再生推進事業費	3,500	
		市町森林整備実施体制等支援事業費	45,500	
		森林認証取得促進事業費	1,700	
		森林認証推進総合対策事業費助成	55,400	
		森林・林業関係団体事業費助成	17,760	
		森林環境整備促進基金積立金	203,124	
		次世代林業基盤づくり交付金事業費	12,200	
		農山漁村地域整備交付金事業費(森林)	903,000	
		森の力再生事業費	1,028,500	
		県単独森林整備事業費助成	16,900	
		森林計画課 計		2,339,284
		林業振興課	林業を支える元気な担い手支援事業費	9,460
	県産材販路拡大事業費		1,920	
	ビジネス林業等担い手確保育成事業費		70,200	
	林業振興総合推進費		10,274	
	住んでよし しずおか木の家推進事業費助成		180,000	
	林業近代化資金利子補給金		0	
	森林を守り育てる人づくり推進事業費助成		9,187	
	中山間地域林業整備事業費助成(就業機会創出)	14,000		
	林業振興課 計		295,041	
	森林整備課	森林整備地域活動支援事業費	482	
		森林整備地域活動支援基金積立金	265	
		造林事業費	741,000	
		県営林道整備事業費	296,000	
		団体営林道事業費	196,000	
		間伐材等搬出奨励事業費助成	151,000	
		県単独林道事業費	321,000	
		集落間林道整備事業費	84,000	
		中山間地域林業整備事業費(山村道路網整備)	129,000	
		しずおか林業再生プロジェクト推進事業費	35,000	
		早生樹活用による次世代林業モデル創出支援事業費 ※	12,000	
		県単独森林病虫害獣総合対策事業費	25,480	
		資源循環林地整備事業費	23,173	
		社会環境基盤重点林道整備事業費	64,000	
団体営過年災害林道復旧費		726,000		
現年災害林道復旧費	2,000			
団体営現年災害林道復旧費	415,000			
森林整備課 計		3,221,400		

※…新規事業

部局名	担当課	事業名	R8当初予算
経済産業部 森林・林業局	森林保全課	保安林整備事業費	25,900
		林地開発許可制度実施事業費	4,395
		治山事業費	1,347,000
		盛土緊急対策事業費(森林)	174,000
		緊急治山事業費	501,000
		林地崩壊対策事業費	3,000
		国直轄治山事業費負担金	336,000
		県単独治山事業費	969,000
		県土強靱化対策事業費(治山)	450,000
		緊急豪雨災害対策強化事業費(治山)	20,000
		現年災害治山施設復旧費	888,000
		過年災害治山施設復旧費	13,000
		現年単独災害農林水産復旧費	15,000
		多様性のある森林づくり推進事業費 ※	12,000
森林保全課 計		4,758,295	
森林・林業局 計		10,614,020	

部局名	担当課	事業名	R8当初予算
交通基盤部 河川砂防局	砂防課	治山地すべり防止事業費	187,000
		県単独地すべり防止事業費	74,000
		緊急豪雨災害対策強化事業費	60,500
		災害関連緊急治山地すべり防止事業費	65,000
		砂防課 計	386,500
河川砂防局 合計		386,500	

部局名	担当課	事業名	R8当初予算	
環境部 環境局	環境政策課	環境関係団体事業費助成(県GB、県造園協分)	4,100	
		環境政策課 計	4,100	
	環境ふれあい課	自然ふれあい施設管理運営費等	204,150	
		県有林管理事業費	52,176	
		県民参加の森づくり・緑化推進事業費	6,354	
		グリーンバンク事業費助成	64,000	
	環境ふれあい課 計		326,680	
	くらし・環境部 環境局	自然保護課	自然環境保全総合対策事業費	8,048
			野生生物保護管理推進事業費	26,759
			野生鳥獣緊急対策事業費	310,000
			生物多様性推進事業費	13,900
			ツキノワグマ対策事業費 ※	13,700
			富士山環境保全推進事業費	20,637
			元気な浜名湖づくり推進事業費	1,544
			南アルプスモデル推進事業費	31,000
			南アルプス生態系保全事業費	9,300
			南アルプス魅力発信事業費	4,600
南アルプス環境保全基金積立金	15,000			
自然保護課 計		454,488		
環境局 合計		785,268		
森林・林業関係予算 合計		11,785,788		

## 【令和7年度の取組支援状況】

### 林業イノベーションの推進

レーザー計測やドローン、デジタル技術など、新しい技術を活用して施業の省力化や安全性向上などを図る「林業イノベーション」。

こうした技術を現場導入して普及するには、実際に見て、試すことが重要です。山林協会では、新技術の実用化や普及を図る地域協議会の取組を、令和2年度から「林業イノベーション推進事業」によりサポートしています。

今年度も各地域の取組支援を予定しますので、新技術の実用化を目指す取組があれば御相談ください。

[https://www.moritohito.jp/pdf/about\\_12.pdf](https://www.moritohito.jp/pdf/about_12.pdf)

<p><b>志太榛原地域</b> 航空レーザー計測解析データを活用した森林境界明確化手法の検討</p> 	<p><b>東部地域</b> ラジコン式小型下刈り機を活用した作業の比較検証</p> 
<p><b>富士地域</b> 自走式地拵え機による下刈り作業の効果実証</p> 	<p><b>中部地域</b> 危険予知活動支援アプリを活用した効果的なKY活動の検証</p> 

### 林業への就業支援（令和8年度予定）

当協会では、県等の委託を受けて、林業への就業支援に関する事業を実施しており、今年度は以下のとおり予定しています。募集などについては、実施前に、しずおか林業就業支援サイト「森林ナビ」や当協会ホームページでお知らせしますので、ご確認ください。

<https://www.morinavi-shizuoka.net/>

<p>森林の仕事ガイダンス</p>	<p>林業への就業を希望する方を対象とした就業相談会です。求人を行う林業経営体などが会場で相談に応じます。県内各地で計3回(7/11三島市、10/18浜松市、1/16静岡市)を予定しています。</p>
<p>森林の仕事見学会</p>	<p>森林での伐採作業や木材市場、製材工場などを見学します。9月と11月の年2回を予定しています。</p>
<p>林業の仕事インターンシップ</p>	<p>県内の林業経営体において、10日間を上限として、林業の仕事を体験します。6月頃から参加者を募集する予定です。</p>
<p>林業就業支援講習</p>	<p>県内林業経営体への就業内定者などを対象とした研修です。チェーンソーや刈払い機の取扱いなど実地を中心に行います。10月5日～17日の約2週間での開催を予定しています。</p>

※日程変更となることがありますのでHP等で確認をしてください

### 第43回しずおか森林写真コンクール作品募集

森林や林業の素晴らしさ、大切さを広く知っていただくことを目的とした写真コンクールで、以下の作品を募集しています。締め切りは8月31日。山林協会のHPにある応募方法等を御確認の上、奮ってご応募ください。

<https://www.moritohito.jp/>



- ① 森林の景観
  - ② 林業・木材産業で働く人の姿
  - ③ 造林、育林、木材生産の風景
  - ④ 治山や林道など森林土木施設や工事の風景
  - ⑤ 森林・林業体験や森林でのレクリエーションの風景
  - ⑥ 森林と一体となった山村や生活の風景
  - ⑦ 豊かな森林が持つ「森の力」を感じる風景
- ※森林には、山崩れや土砂災害の防止、洪水や渇水の緩和などの働きがあり、それらを静岡県では「森の力」と呼んでいます。

「森と人」 公益社団法人 静岡県山林協会

編集・発行 静岡市葵区追手町9-6 県庁西館9F  
TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489

